

第21号  
平成8年  
1996



会報

# にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

## 目 次

ご 挨拶	同窓会 会長 寺田 郁雄	1
ご 挨拶	学 校 長 尾崎 翹彦	2
学校近況	教 頭 大谷 修二	3
進路状況について	進路指導部長 川西 輝道	4
高知支部だより この1年あれこれ	森下 春茂	5
須崎支部だより 還暦定年に想う	堅田 五郎	6
大阪支部だより	山田 豊	7
幡多支部だより 生涯とマラソン	山本 重光	8
京滋支部だより 同窓会に出席して	中川榮一郎	9
中京支部だより 岡林懸市君の死を悼む	春田 陽三	10
関東支部だより 主人の思い出	海地 栄子	10
森岡元校長先生 ケニア共和国へ技術指導に派遣される		12
第2回体育祭開かれる		13
事務局だより 開校記念		13
同窓会総会開催		14
終身会費納入のお願い		14
ご寄付御礼		14
平成7年度決算並びに平成8年度予算		15
終身会費納入者(1年間分)平成7年10月1日～平成8年9月30日		16
平成8・9年度役員		17
会報届先不明者		18
校 歌		
各種証明書の発行について		
編集後記		

# ご挨拶

昭和21年機械科第一種卒

同窓会会長 寺田郁雄

同窓会の皆さん御元気で御活躍のことと、御慶び申し上げます。

会員の皆さんには、日頃より同窓会活動に御理解をいただき、各支部を通じて御協力を賜り、誠に有難う存じます。衷心より厚く御礼申し上げます。

扱て本年は、母校創立五十五周年の輝かしい節目の年にあたり、二十一世紀への礎を築く年と位置づけ、八月十一日本部総会を開催いたしましたところ県内支部はもとより、遠く関東支部、大阪支部、京滋支部の御協力によりJ A須崎の三階大ホールを立錐の余地のない御出席をいただき、大盛況裏に会を終了することができました。

当日は、母校に御縁のある恩師の先生方も多数御出席いただき往時を偲んだ貴重な御挨拶があり、出席者全員感銘いたしました。

先生方の変りなき須工に対する情愛に對しまして心より感謝申し上げます。

今や母校は、尾崎校長先生の卓越せる御指導により魅力ある、そして特色ある職業高校として日々発展いたしております。誠によろこばしき限りであります。

又諸先生方の献身的な御指導により基礎学力の向上が計られ、来年四月開学の高知工科大学進学に向けて努力いたしておられるようであり、誠に心強いかがりであります。

会員の皆さん、須工同窓会も御蔭様で会員数が八千の大台に乗り、今や九千にせまる状況であり御同慶のかぎりであります。

過日の総会におきまして、大勢の方々から、御激励或は御指導をいただきました。

それは、時代は急テンポに進んでおり、二十一世紀は目前にせまっております、吾々須工同窓会も、時代に取り残されないようにしなければならぬ。それには、如何になすべきか、次の時代を見据える重大な時期ではないか、ということでありました。

本部といたしましては、会員の皆様方の御意志をもとに、会の運営をいたす所存でございますので、今後何分の御指導、御協力の程よろしく御願ひ申し上げる次第であります。

同窓会の発展は、とりもなおさず、母校の発展に寄与することであります。

吾々同窓会は、微力ではございますが、母校に對しまして、御協力申し上げますが、なりません。

それには会員の親和が源であり、多数の方々、事ある毎に一堂に会することが肝要でありましよう。どうか会員の皆さんには、各支部長を軸として、横の連絡をとり合つて、より一層の御活躍を御期待申し上げます。

終りに臨み、本会報の発刊に際し、並々ならぬ、御努力をされました事務局の先生方と、関係各位の

御協力に對しまして心より感謝いたしますと共に、御礼申し上げます。

会員の皆様方の御健康と更なる御発展を衷心より御祈り申し上げます。



H 8 . 3 . 1 卒業式 会長祝辞





# ご挨拶

学 校 長

尾 崎 翹 彦

平成八年度も、はや秋冷の候と相成りましたが、同窓の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は、本校教育につきまして、ご指導ご協力いただき心よりお礼を申し上げます。

本年八月には、JA須崎市において平成八年度の総会が、県内外の同窓生の多数のご出席のもとに盛大に行なわれ、学校といたしまして大変うれしく存じています。

かえりみれば、昭和十六年当時のすぐれた実業家であり政治家でもあった寺尾豊先生が、工業の隆盛発展により、文化並びに生活の安定と、経済の高度化を基盤とすべきだとの信念により工業学校を開校されたのに始まり、以来五十五周年を迎え、その間に送りだされた八千四百余名の卒業生が工業界はもとより、県内外の各界において活躍されておられることは周知の通りであります。

このような中で、今本校に求められていることは、時代の進展に応じた魅力ある工業教育であり、自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成であります。

その理念は次の三つの柱で構築されていると思えます。

## (1) スペシャリスト(専門技術者)への道

この分野の技術に関して、誰にも負けない自

## (2) 幅広い知識・技術を持った人材育成(オールラウンダー)への道

信と誇りを持ち、社会に貢献できる人材の育成をすることが工業教育の大きな目標であり、また生涯を通じてより以上、知識・技術の深化を図る継続教育が必要とす。

問題解決能力や創造性の育成を図り、機械・電気・情報等の個々の分野でなく、将来に向けて技術の融合化や、総合化など多様に幅広く対応できる総合的実践技術者を育成する。

## (3) 大学への進学の道

工業高校で学ぶ生徒の中にも、専門的知識・技術を更に深め、工学的な能力・資質の向上を目指している者について、大学工学部への推薦入学枠の拡充、特別入学試験や高等専門学校への編入学の拡大等が緊要の課題であります。

本校は、五十五周年の歴史と先輩達が今日まで培ってこられた、輝かしい伝統を受け継ぎ高度技術社会に向けて工業教育の創造をして行くことが責務であると痛感しています。

どうか、同窓生の皆様におかれましては、後輩のために、それぞれの立場からご指導ご支援をお願い申し上げます。



生徒昇降所 (H七年完成)



# 学校近況

教頭

大谷 修二

平成八年度の新しい学期がスタートしてから、早や二学期なかばとなりましたが、同窓会の皆様方には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この春の異動で、前小松教頭先生の後任として、高知工業高校から赴任いたしました。

伝統ある本校に奉職させていただくことは、身に余る光栄と思っております。まだまだ未熟ではございますが、一生懸命頑張りたいと思っておりますので、よろしく願います。

さて、本年度も昨年度に引き続き生徒達の学力向上対策の一環として、「基本的生活習慣の重視」「目的意識の醸成」を柱に取り組んでおり、大部分の生徒達は、勉学にクラブにそして資格取得に頑張っております。

本年度機械科がクラス減となり、四月現在の生徒数は、一年生一三〇名(定員は一六〇名)、二年生一五二名(定員二〇〇名)、三年生一四六名(定員二四〇名)、合計四二八名(定員六〇〇名)で定員に対して一七二名の生徒減となっております。生徒確保が課題となっている中、今年の出身中学校は三六校で幅多く高知の広い範囲から通学をしています。

新しい施設・設備として、学校案内標識の設置、屋外便所の改装を行いました。

学校の主な行事として、四月は一泊二日、

一年生全員が、大方青少年センターを利用して集団宿泊研修を行い、校則、生徒憲章等、須崎工業高校生としてのあり方について、オリエンテーションを行いました。五月には県体育大会が開催され、ソフトボール部、空手道部が三位、陸上部(砲丸投げ)五・六位となり、ソフトボール、陸上部(砲丸投げ)は四国大会に出場しました。そして、高知県秋季大会で、ソフトボール部が九年ぶりに優勝、また柳川ソーラーボート大会で、CAD同好会が全国第三位と健闘しました。五月二九日に開校記念行事で、昭和六一年三月機械科卒業生で、闘犬センターソフトボール部主将山崎正宏氏より、ソフトボールを通じての人生のあり方、社会人としての生き方、高校生活の送り方等について講演をいただき、大変参考になり、また感銘を受けました。続いて行われた各科対抗の恒例の綱引き大会では、昨年優勝の造船科に勝った機械科が優勝しました。

十月には体育祭があり、科別対抗(M・A・M・B・S・C・E)でアーチを作り、応援合戦等も行う本格的な内容になる予定です。

### 教職員の変動

退職 味元 清(事務)

転出 小松 陽一(教頭) 東工業高教頭

仲村 加恵(国語) 高知東高

西内 裕詞(英語) 窪川高全

岡崎 明(体育) 須崎久礼分校

山本 哲資(芸術) 窪川高全

門田紀佐子(養護) 日高養護

西川 哲夫(機械) 高知工業高定

公文 雄二(電気) 高知工業高全

転出 橋床 満治(事務) 高知西高

三浦さおり(英語) 岡豊高

清本 祥一(理科) 安芸高全

濱田 宏(体育) 清水高全

転入 大谷 修二(教頭) 高知工業高全

矢田 満城(英語) 高知丸の内高

高橋 志治(体育) 榊原高

武田みのり(養護) 榊原高

山岡 英樹(事務) 高知南高

寺内 直仁(事務) 新採用

宮崎 重行(国語) 講師

池田 進(社会) 講師

梶原 拓(数学) 講師

川端 由紀(理科) 講師

森田 和美(理科) 講師

伊藤 真美(英語) 講師

国澤 千砂(英語) 講師

渡辺 哲哉(芸術) 講師

梅原 富子(家庭) 講師

宮地 正実(機械) 講師

山崎 桂(造船) 講師

竹村 義典(造船) 講師

今年はいくつかの方が異動になりました。長年、本校にご勤務いただいた方々に感謝し、益々のご活躍、ご多幸をお祈りします。

新しいメンバーを加え、本校の発展に努力しておりますので、皆様方の変わりぬご理解、ご協力、ご援助をお願い申し上げます。



# 進路状況

## について

進路指導部長

川西 輝道

同窓会員の皆様、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

進路指導部長、西川哲夫先生が今春の定期異動により高知工業高校に転動になりました。

先生には、七年間、進路部長として、本校の進路指導の確立に努めてられました。

お蔭様で、企業と本校と強い絆ができて、その成果が今秋でております。

長い間、ご苦労さまでした。高知工高での、益々のご活躍をお祈りしています。

そのような訳で、私が本年度より進路指導部を担当することになりました。同窓生の皆様のご協力、

お力添えをよろしく願います。

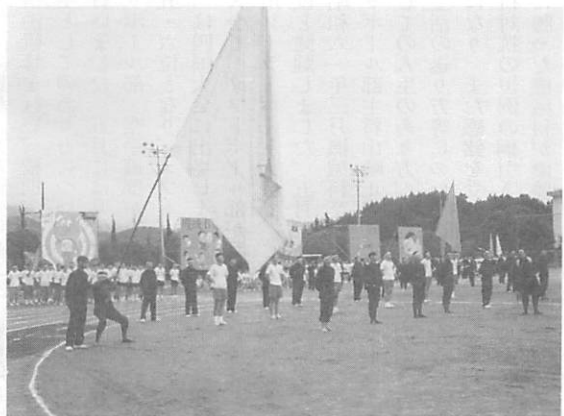
年度当初、私は本年も昨年を引き続き求人状況が厳しいのではないかと考えていました。しかし自動車産業を中心に需要が伸び、新規求人が増えるのではないかと感触を得るようになりました。

七月一日からの求人受付状況は昨年よりやや下回るような状況でした。

本年度の三年生は、一四四名（昨年度一八八名）で、

実質一クラス分に当たる人数が定員割れて入学して

いますので校内選考の結果、生徒の希望するところへ推薦することができました。又、八月より求人数も増えてきましたし、二次募集も行なう旨、各社より連絡をいただきました。



H 8 . 10 . 14 第 2 回体育祭風景

このような状況の中、九月十六日より入社試験が解禁になり、現在選考結果がほとんど出てきました。その結果は、機械・造船科では希望通りに内定していますし、電気・化学工業科ではほぼ順調に内定しています。昨年に比べても格段に良い結果が出ています。

これも、ひとえに同窓生の皆様のお力によるところが絶大だと感謝しています。

なお表は、昨年度迄の地域別就職者数及び、本年度受験希望企業先の地域別表、求人状況です。（但し休学一名除く。就職進学者は進学に入れる。）

まだ試験を実施していない企業もあります。

### 過去 3 年間の進路状況（8 年は 3 年生の希望調査数）

年度	生徒数	進学	就 職		その他
			県内	県外	
5 年	196	12	82	102	0
6 年	206	32	77	91	6
7 年	188	24	75	75	14
8 年	144	33	41	62	8

### 地区別就職先（人数）

年 度	4	5	6	7	8
県 内	78	82	77	75	41
中・四国	36	30	38	28	17
大 阪	19	21	14	12	8
関 西	18	20	13	15	13
東 海	21	17	14	8	13
関 東	13	14	12	12	11

（H 8 年度は就職希望者数）

### 本年度並びに過去 2 年間の求人状況（会社数）

年度	大阪	関西	東海	関東	中・県外 5 地域		県内	計
					四国	合計		
6 年	120	98	72	164	86	540	128	636
7 年	91	89	58	114	69	421	122	543
8 年	82	70	56	93	64	365	133	478

H 8 年度は 9 月 13 日現在の状況

# 高知支部だより

## この一年 あれこれ

昭和21年機械科一種卒

森下 春茂

会員の皆様お元気ですか、二年ぶりです。長い人生には、つらいこと、悲しいこと、又たのしいこといろいろありますが、くじけず、お互いに元気で頑張りましょう。

さて、私、平成七年三月から高知支部長の役を仰せつかり、同窓会とは何だろうか、いろいろ考え、皆様に支えてもらいながらやってきました。そのいくつかを報告しましょう。

その一 同窓会の組織固めとして「職域」「地域」に「卒業年次」を新たに加工幹事をお願いしました。同窓生に書画・歌・焼物等をたしなむ者も多く作家として名を成している者もあり、益々の発展を願って、幹事に芸術・文化担当として、森下昭堂氏(二一年卒) 日本書芸院審査会員を選任しました。

その二 高知工科大学に工業高校の生徒進学について特別推薦枠を設定して欲しい申し入れをしたこと。

私が、高知県庁に務めていた頃、高知大農学部にて農業高校からの進学者に特別推薦枠があるやに聞いていました。高知工科大にもそのようなものがあってもいいのではないかと考えるに至り、平成七年十一月二十二日、高知支部、拡大役員会の席上、議題として、高知工科大に工業高校進学者の推薦入学を、学校と一緒に運動をしよう。その推進役に森岡清元校長(須工商卒)に一任しようではない

かと提案、余りにも唐突なことというか、なかなか同意が得られそうにもなかったが、説得、討論の結果、原案通り承認された。森岡先生ころ良くこの役を引き受けて下さり、いよいよ陳情作戦が開始。

二月議会開会前に、知事と県議会に陳情することとした。二月議会は八年度の子算と事業が決定する最も大事な議会であるからである。森岡先生は、工業高校に呼びかけ進学希望者が実際どれだけあるかなどデータを集め、校長会の招集、この運動を進めるための組織づくり、しめくくりとして陳情文の作成と陳情を行う当日の各校代表者の行動計画とその陳情を受ける側の接点の組合せ、将に水も漏さぬ計画、森岡先生の隠れての采配、見事なものでした。橋本知事が、直接工業高校長(同窓会を含む)に逢って話し合いたい希望があることを、知事秘書から私が耳にし、渡りに舟とばかり森岡先生に伝え、平成八年二月二十一日午後四時半、知事応接室での橋本知事と県内の工業高校長、同窓会長七校との懇話会が開かれ、この会には県教委高校教育課の指導主事二名も立合った。知事と直接校長が逢うなどということは、今迄は考えられなかったことであります。

陳情の成果は、来年四月を期待して良い感触を得ているということです。森岡先生、ご苦労さまでした。母校、同窓会の発展のためにもありがとうございました。この運動推進メンバーを、後記します。

その三 森岡清先生、ケニア国へ：国際協力事業団専門家ナイロビ市の学校の先生として派遣されることになり、平成八年八月二十四日に高知会館で壮行会(主催尾崎校長先生他)があり、同窓会

からは、寺田会長、森下支部長、同期生ら多数参加して盛大に行なわれた。森岡先生のご成功とご健康を同窓生と共に心からお祈りしています。

### 後記

高知工科大学への工業系高等学校生徒の進学に関する懇話会出席者と、懇話会テーマ。

日時 平成八年二月二十二日(水)午後四時半より  
高知工業高校同窓会長 宗竹啓介(連合会長)  
須崎工業高校 寺田郁雄(副会長)

高知支部長 森下春茂  
安芸工業高校同窓会長 小原勇男  
高知東工業高校同窓会長 川端 恒  
高岡高校宇佐分校同窓会長西村昌治  
宿毛工業高校同窓会長 小島孝良  
宿毛高校小筑紫分校 小野孝生

●高知県工業系高校同窓会連合会事務局長  
森岡 清  
安芸工業高校校長 岡崎紀秋  
高知東 " " 常光泰郎  
高知 " " 野町幸一  
須崎 " " 尾崎颯彦  
高岡高校校長 植田忠夫  
宿毛 " " 片岡幸三  
宿毛工業高校教頭 包国 勝

懇話会テーマ  
一、推薦枠設定の要望事項について  
二、高知工科大学と将来の本県工業系教員確保について

三、高知工科大学と高知県工業系中小企業との連携について

## 須崎支部だより

### 還暦定年に想う

昭和29年造船科卒

堅田 五郎

同窓生の皆様にはお変わりなく、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私も還暦の節目も過ぎ、平成八年三月末に三十六年余り勤めた住友大阪セメント(株)を定年退職して、現在、須崎労働基準協会に勤務しております。

昭和二十九年の卒業ですが、丁度その年は造船業界の汚職事件があり、その影響で最悪の就職難だったことを記憶しております。

私達、造船科十六名の内二名しか造船業界に就職できませんでした。

又、大阪方面に就職をした人達の中には、志して就職した会社が、二ヶ月余りて倒産して、路頭に迷い職探しに大変な苦勞をしたようです。

私は、県外就職をあきらめて、いつか良い時もあるだろうと腰掛けつもりで、まず自動車の運転免許を取るつもりで、担任の竹村先生に黙って卒業式の前々日から高知の会社に出社して卒業式の当日、こじやんと怒られました。

始めのうちはトラックの助手をして、一年足らずで運転免許を取り(当時は自動車学校がなく高知の一宮試験場での一発試験でした。受験料が七百五十円で、日当の四日分だった。)その会社の運転手をして県内外と走り続けました。

国道とはいえ舗装したところはなく、自動車が走れば土煙が舞い上がり、通行人が口を抑えて息を殺すありさまでした。

その当時の、道路を走る車と云えば、トラックかバスで運転手の数も少なく、何処へ行っても運転手さんくんと、もてたものです。今でこそ云えますが行く先々では、チップやブレーキ踏んだり(会社に内緒でよその荷物を積んでお金を貰う。当時の運転手用語)また、民家へ行けば、お茶替わりにお酒はつきもので、飲酒運転は日常茶飯事でした。当時は飲酒運転の取締りがなく、確か定員オーバーだけは非常に厳しかったことを覚えております。今から想像ば嘘のような良き時代でしたが、この仕事もやがては、車社会が来て運転手も増え年がいくまで続けたくないと思ひ、昭和三十四年に職業運転手の足を洗いました。

昭和三十五年五月二十四日にチリ津波があり、須崎湾周辺に大きな被害を受けました。この津波は、二十三日午前四時十一分に南米のチリ沖で起きた地震により津波が発生して毎秒二百メートルの速さ、丁度ジェット機と同じ速度で日本を襲ったものです。

その年の七月に須崎市の誘致工場として、大阪窯業セメント(株)高知工場建設のための測量が始まり、私はその測量から勤めて建設工事等たずさわって来ました。

翌年(昭和三十六年)四月に初めて須工の後輩が八人位入社してきましたが、十月の操業開始に向けて一般の採用試験も始まり、先輩・後輩の数も増えてきました。

工場が段々に大きくなるにつれ人も年々増えて、一

時期は百名余りになり、同窓の連帯感ができて心強く思いましたが、十年、二十年と立つと先輩達が順々に定年退職して行き、気がつくといつのまにか自身も同じ立場になっていました。

私が退職する二年前(平成六年)に、突然住友セメント(株)と合併の話が出てきて、その年の十月から合併して、住友大阪セメント(株)高知工場と改名し新たな躍進に向けて、七十余りの後輩達が一生懸命頑張っております。

ところで、今年四月は大変うれしいうことがありました。須工卒業して四十三年たつて初めて十六船会を大阪の高槻市「桜の名所」の「かじか荘」で、恩師の竹村先生を迎えて開催することができました。

十六船会という名称は、同期十六名が後々に残す絆として決めたもので、四十三年の歳月を過ぎても、青春時代の須工三年間の兄弟愛が絆として残っているのは、同級が卒業してそれぞれ社会人、いや男として一人前になった証してはなだろうか。私はこれが須工伝統の誇りだと感銘しました。

卒業時は、皆が結婚したら夫婦同伴で同窓会をするぞ……と決めていたが、なかなか実現できず子育ても済んで還暦に入つてやっと、念願の十六船会が実現しました。

竹村先生、夫婦同伴四組、総勢十六名が私の持参した須工学生服(知人ご子息の須工学生年服を借りて)二着を全員が着て須工の青春時代の想い出を夜遅くまで(日にちも変つた)時間を忘れて語りあつて、来年の再会を誓い床についたが、やはり修学旅行の気分がよみがえつたようでした。

最後に、私が現在勤務している須崎労働基準協会



の職域は、須崎市・土佐市・中土佐町・窪川町・大正町・十和村・葉山村・東津野村・榊原町・佐川町・越知町・日高村・仁淀村・池川町・吾川村がエリアですが、出向く先々で先輩・後輩の方々にお世話になっており感謝しています。

これからも地元でも多くの同窓生にめぐり逢えるのを楽しみにして頑張っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

それでは同窓生のみなさん

。今日も一日健康でご安全に。



## 大阪支部だより

昭和21年機械科一種卒

山田 豊

私が写真に興味を持ち始めたのは、約三年半くらい前のことである。

ある日、古い写真を整理していた時、我が家より夜明け前の東の空を写した写真が、特に目を引いた。いつ写したのか全く記憶がないが、写真の下の部分

は白色に少し薄紫を帯びた色合で、上方にいくほど紫から紺色に変化している色合が見れば見る程、神秘的で何で今まで気がつかなかったのか、早速当時の写真機を探しまわったことを思い出します。

その当時は、一寸した自転車事故で足を痛めておつたので、月に一回位のゴルフを取り止め写真機を持って大阪城公園とか鶴見緑地に出かけ手あたり次第に写真を撮り回つては、出来上ってくる写真に胸をときめかし、いつもその結果は、自分のイメージとは全く違う感じで、がっかりしたこと連続でした。

ところが、あるよく晴れた日曜の夕暮れ時、マンションのペランダから見ると西空は茜色に染つた空に今や夕陽が沈まんとしているところでした。

思わず写真機はと叫びながらあわてて、レンズを夕陽に向け胸をはずませながらシャッターを切つた。

じつと西空を見ていると、日が沈み空が茜色からうす紫、ダークブルーと変っていく。

落日のダイナミックな情景とは、全く違つた静かな色合の変化である。

目の前の風景は、どんどん暗くなり手前のマンションはシルエツトとなり電灯がともる頃（日没後三十分位）山辺は茜色からうす紫、ダークブルーと、変化していく空の色のもいえない美しさに心を、打たれたのである。

この夕景は、刻々と変化していきアツという間に、ダークブルーから闇色に変わっていきます。その頃になると、月が優しい光を投げかけてくれます。

こうした光景を何回か経験し、そのたびにレンズを向けては、その出来ばえに心をときめかしたが、イメージどおり写真が出来たときは、「やつたー」と

思わず声をあげたものでした。

それからは、全く写真機にとりつかれ、暗れた休日には写真機をさげでどこかに出かけるのですが、被写体は一番手軽に出かけられ、四季の移り変わりに咲く様々な花を対象に写し歩き回りました。

春は梅から始まり、三日見ぬ間の桜に気をもませられ、芽吹き始めた若葉など今まで気がつかなくなつたが、レンズでのぞく新緑は本当にきれいです。

この緑も濃くなり、日差しも強くなりうっとおしい梅雨が過ぎると、文字どおりの夏がやってきます。青空にそびえる豪快な入道雲、青と白のコントラストは夏の魅力です。

八月も下旬になると、暑さは残るがどことなく夏の盛りを過ぎた感じて、緑の色合も心なしか色あせ、なんとなく初秋の気配がただよってきます。

秋の魅力は、四季の移ろいが最後に見せてくれる彩りの変化です。

コスモス・菊・紅葉など写すものに不安はありません。緑黄紅葉の三色に映える風景には、心がかきたてられる思いがします。鮮やかな色彩の変化を見せた木々の葉が散りいくと、冬がやってきます。

冬は、何といつても雪ですが、木々の葉や花に積つた雪を見ると、心が騒ぎ寒さを忘れず。

このようにして写真と共に過ごす日が続いておりますが、その関係でゴルフの方はトンと御用がなくなつてしまつて、皆さんに付き合ひの悪い思いをさせているのではないかと、自分では反省しているところですよ。

皆さんも、一眼レフのレンズを通して見る四季の花の美しさを一度経験されてみてはどうでしょうか。

生涯とマラソン

昭和55年機械科卒

山本 重光

今、私が勤務している会社は、土佐佐賀町内にある山本建設株式会社並びに、幡多生コン株式会社、かしま工業株式会社、そして私の勤務している、三協自動車(株)です。各種自動車の車検、整備を行っています。又、三社では生コン販売及び各種重機のレンタルやクレーン作業をおこなっています。

私達の会社は、四社グループになっており、山本建設では、浚渫船を所有し、港湾土木事業を、地元を始め県外へも着手しています。

そして、須工高の先輩として、山本建設社長及び副社長以下部下も数人います。四社グループ内では、先輩後輩を含め十一人程います。

土佐佐賀は、かつおの一本釣り、黒潮一番地には、かつおのたたきがあり、他に特産物として「しめじ」「まいたけ」「ニラ」等ありますので、佐賀町へ来たら、土産として買って行って下さい。

話ばかりですが、私は、マラソンをしています。佐賀町出身で、神奈川県の大東化学に勤務している黒田一福さん(昭和四十九年化学工業科卒)も、マラソンをおこなっています。良き先輩として指導してくれます。

六年前に、初の海外でハワイの、ホノルルマラソンに出場しました。雰囲気も良く走れて良かったと思えました。海外での良い思い出が多く出来ました。

今、高知県西部で開催されている「四万十川百キ

ロマラソン」を紹介します。

四万十川流域を、千五百人のランナーが駆け抜ける「四万十川百キロマラソン」は、一九九八年開催の第五回大会を、国際陸上競技連盟(FAAF)公認大会にしようとして取り組んでいます。

私も昨年の第二回大会に出場しました。

百キロの部と六十キロの部があり、自分は六十キロを走り抜きました。途中、五十キロから足の痛みで走れなくなり、大変つらい思いをしながら、やっとゴール出来ました。

ゴールしてからは、体育館での針治療や、マッサージ等をおこなってくれました。アフターケアも良いと思います。六十キロ、百キロ走り抜く事は、精神的・肉体的にも大変つらいと思います。

又、スタッフ・ボランティア約千五百人の存在が強いと思います。やはりランナーにとって、応援がはげみになり、走ることができる。

須工高の先輩・後輩方も、ぜひ四万十川百キロマラソンに挑戦して下さい。

地元の土佐佐賀町も、毎年黒潮一番地で土佐クロスカントリー大会を、三月の第一日曜日におこなっています。十キロ・五キロ・三キロの部があり、六百人以上の人が来ます。

次は、七月後半から八月始めには、ティアスロン大会もおこなわれ、水泳とマラソンを一人がおこなう種目です。平成十四年、同大会を国体に向けて進めています。ぜひ皆様も、この二つの大会に友人と一緒に出場して下さい。

尚、佐賀町もホエールウォッチングをおこなっているの、家族で来て下さい。

私自身マラソンは人生だと思っています。つらい事もあれば、良い事もあり、波があり壁もあります。私自身もそれが有り、乗り越えて行かねばならないと思えました。

須工高の先輩も後輩も何か趣味を持って、人生楽しく生きる事が大切だと思います。

須工高の発展を願っています。同窓の皆様・先生方、お元気で御活躍されます様、祈り筆を終えます。



無事完走……中央 山本重光さん

## 同窓会に出席して

昭和35年機械科卒

## 中川榮一郎

平成八年八月十一日、昼すぎ、JR窪川駅より各駅停車に乗る。平成八年度須崎工業高校の同窓会総会に出席する為である。

大間駅に着いたのは、開催時間より二時間以上早い一時五十分頃でした。港の堤防を散歩して、時間をつぶす。開会三十分前に会場のJA須崎市玄関から入ると、一階にはすでに三々五々須工OB達が集っていました。受付で名札と資料をもらい、三階ホールのお会場に入る。会場にはまだ四・五名の人しか入っておらず後の方の席にすわって資料をながめる。そのうち段々、人が詰って来て、京滋支部の田村先輩が入って来られたので手を挙げて合図する。大阪支部の松村先輩達が、中央の方で、「こっちに来い」と云うので、田村先輩と一緒に移動する。しばらくして、濱川先輩が来て私の横に座る。

参加者名簿によると、私と同期の35年卒業組は、機械科で、石川宏哉氏、谷口務氏、松浦政志氏と私の四名、電気通信科では、梅原邦夫氏、中村美枝さん三浦加代さん、益法子さんの四名の参加でした。がやがやとやっているうちに会場も、前の方の一部を残して一杯になり、総会が始まりました。開会の辞に始まり、物故者への黙祷の後、順次、進行致しました。議事進行を聞きながら、私の思いは三十数年前の在校生だった頃の思いに出に没っておりました。

当時、土讃線は、SLが走っており、私の小学生の頃に窪川駅が開通し、窪川や沿線の須工の生徒は汽車で通学出来るようになっていました。

私も毎朝、母に弁当を作ってもらい、列車に間に合うように、駅迄走って出かけたものでした。行きは、新莊駅で降り、帰りは須崎駅から乗っていました。

汽車は真黒な煙を吐くので、トンネルに入ると必ず窓を閉めねばならず、それでも車内の空気は汚れるので、我々の鼻の穴はたいがい真黒になっていたのでした。

クラスメート達は、卒業後の三十数年間それぞれどのような方をしているのだろうか。ほとんどの人とは、卒業以来会っていない。

いたずら者も結構多かった。いたずらと云えば私は、弁当を誰かに食われてしまい、家に帰って空の弁当を開けてみると、女性のスード写真が入っておりいささか狼狽した事を憶えている。

又、スポーツでは我々が入学した頃が相撲部の全盛期で、全国征覇を果した時は、須崎市内をパレードしたように思う。

列車に乗っていても相撲部の人と一緒にあれば、チンピラも絡んで来ないので、心強かった。

いろいろと思い出しているうちに議事も終了し、懇親会となり、料理が運ばれて来た。会費が安い割りには、種類・分量も多く、事務局・幹事の方々は苦心された事と思う。濱川先輩が、昆布巻きの寿司を「こんな寿司は京滋地区では食えんぜよ」と云われるので、なるほどと思ひ、こういった料理を重点的に食する。竹内良雄先生が来ておられたので、挨拶

に行く。八十二才になられた由、お元氣をうてである。竹内先生に会えただけでも、来て良かったと思う。

私が今の会社に就職したのは、竹内先生が「中川、中川電機という会社から求人が来ちゅうきに受けて見るかよ」とご紹介いただき、入社したのでした。

その後、社名が変わり、松下冷機となったが、私の会社人生も、停年迄五年と数ヶ月を残すのみとなりました。私は五十才の時、思い立って電気関係の資格を取る事にしました。

現在、電気管理士と電験二種を持っていますが、電験一種にもチャレンジ中です。

一種に合格出来たら、合格体験記を、電気雑誌に書いて見たいと思っています。

扱って、平成八年度の京滋支部総会は、十月二十六日京都の「きよみず」で行われます。

ここは京都市の健康保険組合保養所となっております、京都市にお勤めの佐伯先輩のご紹介によるものです。多数の同窓生の参加を期待しています。

京滋支部同窓会も、最初の会合は何となくきこちなかつたのですが、廣瀬支部長の人柄とご尽力により回を重ねるごとに和氣あいあいとした雰囲気運営されております。



## 中京支部だより

### 岡林 懸市君の 死を悼む

昭和24年機械科卒

春田 陽三

平成八年六月六日午前六時十五分、私の無二の親友、岡林懸市君が亡くなりました。

昭和二十三年の春、母校須崎工業高校機械科二種(第五期生)を卒業してから二十年振りに、奇しくも名古屋で会った時は、お互いに手を取り合つて大喜びをし早速、夜遅くまで盃を重ねたものでした。

十年一昔と言いますが、二十年ともなれば生れ故郷の高知の事、須工時代の事に花が咲き「お前どうして名古屋に来たか」と興味津々に語り合いました。岡林君は、現在の不三越工業(株)の前身、土佐工業から不三越工業(株)を設立致しました。私は、葉山農協から些かな野望を抱いて上名した事など青年期の迂余曲折を語り合い、進む道こそ違ふけれども意気投合し、それ以来、二人の絆は三十年近くもなくてはならない存在となっております。時に触れ、お互が、「七十才頃までは現職で頑張ろうや」と話しておりましたのに病氣とはいえ、突然帰らぬ人となつてしまいました。

楽しい旅行をした日、ゴルフの手ほどきを続けてくれた日々、又、近い将来「旅をしようや」と話していた事、まだ岡林君の声が聞えてくるようです。

「夢であつて欲しい」と一瞬思いましたが、やはり結果は悲しい現実でした。岡林君は土佐人らしく、豪胆、磊落の中にも、郷土を愛し、母校を愛する人

でした。初めて会った時、須工の卒業生が中京地区で沢山就職し、中には企業の幹部として活躍されているが、「支部が無いのは淋しい事だ」と早速、多忙も省り見ず、各企業を訪問し支部を結成しました。然し中京地区と言っても、東海四県に亘る広範囲と、各人の職場の都合や家庭の事情などがあり、再三に亘り集いを計画しましたが成果を挙げる事が出来ず、加えて会社の多忙や体の不調で支部活動も疎かとなり、心配して本部とも連絡を取り合い乍ら善後策を講じられていた矢先であり、残念な事でした。「世代はだん／＼進んで行くし、おれ達は老化して

## 訃報

平成八年六月六日、中京支部長でありました  
岡林 懸市氏(昭和23年機械科二種卒)  
が逝去されました。

御生前の同窓会活動に対するご協力に感謝し、  
ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



故 岡林懸市氏

行く、どうしても若い人に託さねばならん」と死の間際まで話しておりました。

お別れの当日には、須工の同窓会本部を始め、各支部からは、ご丁寧な弔詞を載せました。

各企業の方々、趣味の会、ゴルフ仲間、親友、郷里の人々が沢山参列され、生前の岡林君の人徳を偶び、最後のお送りを致しました。

これからは、岡林君が育んだ技術者の社員が奥様と共にその遺徳と、遺業を引継ぎ更に前進する事を祈り乍ら岡林君のご冥福をお祈りします。

## 関東支部だより

### 主人の思い出

海地 栄子

子供の頃、お遍路さん(中年の男性)が私の顔を見て、「将来弁護士と結婚して東京で生活をするようになる。」とおっしゃっていました。

私が「叔父さん。弁護士と言う職業は、神様の御役の代わりをする仕事であつて、絶対に間違いが許されないでしょう。それを支える能力は私には無さそうだけど、それ何かの間違いでしょ」と尋ねると、そのお遍路さんは私の顔をジッと見て、「絶対に間違いない」と断言されたのです。

私は、昭和四年の生まれてますが、私の若い頃高知には「押しかけ見合い」とも言うべきものがありました。

年頃の女性の評判を聞きつけた男の人が、直接家や

勤め先に乗り込んで見合いを申し込むのです。私の所にも、日曜日ともなると何人かお見えになったのですが、女の人が品物のような扱いを受けている気がしてならなかった私は、先方と出くわさぬよう朝の十時過ぎには、家から逃げることにしておりました。

所が、主人の時に限って途中で電話が入ってしまい、逃げる時機を逸してしまつたのです。仕方なく観念してお会いすることにしました。もちろん最初は頑なにお断りしていたのですが、出身が土佐神社の元宮のある浦の内であると聞いた時、

「土佐神社の神様といえば、日本が潰れかかった時に必ず救いの手を差し伸べて下さる方だから、この人もゆくゆくは日本を救う大人物になるのでは？」と思ひ遂に結婚を決意しました。

主人は、現在の須崎工業を卒業後、岡山の中島飛行機で働き、戦後一旦浦の内に戻つたものの家出同様に上京し、明治大学法学部に入学して可法試験の勉強を始めました。

その頃、東京では夜になると停電していたのですが、国電のホームだけは、例外的に電灯がついていたので、主人は毎晩定期券を持って目黒駅まで行き、夜通しホームの電灯の下で勉強していたとのことでした。大学関係者の方々も異口同音に、主人の勉強態度は人間業でなかったと私に教えて下さいました。

ただ、受験生活の無理がたたつたため、主人は司法試験合格後に肺結核を患い、郷里の浦の内にて療養することを余儀なくされました。私に「押かけ見合い」を申し込んできたのも、実はこの療養中のことだったので。

昭和三十年三月二八日に式を挙げた後、すぐその足で私達は上京し、翌四月からは主人の司法修習生活が始まりました。修習中、大学の方からは是非教授に、とのお誘いを受けたものの、未練を受けることなく自分の信じる道を生きていくという根柢からの高知県気質の主人は、結局そのお誘いを断わり、修習後は弁護士道の道を選びました。

所が、いざ始めてみると、身内や知人のいない東京ではなかなか仕事の依頼が来ません。収入もろくに無く、主人が毎日「高知に帰る」と嘆くのを私が引き止める日々が十年続きました。

厳しいながらも、何とか生活が出来るようになって、高知県で活躍されている弁護士の方から「得意先を全部君に護るから高知に帰ってこないか。」とのお誘いを受けました。その方は、県内の主立った企業の顧問弁護士をなさっていて、もしその話を受けていたならばさぞかし豊かな生活が保障されていたでしょうが、九九％負けかかっていた訴訟を最後の1%の所で逆転勝訴することに生き甲斐を感じていた主人は、結局その話を断つてしまいました。高知では残念ながら、そうしたスリルのある事件にめぐり合う機会は無かつた様なのです。

よく神仏は、この世に生きる者をあの世から応援するために、この世で一番活躍している者をあの世に召されると聞きます。

主人が七十歳間近で死んだことを聞いて「まだまだこれからだったのに」と嘆く方もいらっしゃいました。でも私は、主人が司法試験の受験の頃と同じように、あの世で人間業でない活躍をして、日本の役に立つべく旅たつていったのだと信じております。

筆者は、第一期生 元同窓会関東支部長  
海地清幸氏の奥様

## ご 訃 報

平成八年四月十二日、初代関東支部長でありました海地 清幸氏（昭和18年機械科一種卒）が逝去されました。

御生前の同窓会活動に対するご協力に感謝し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



清家氏を讃える会において（H7.5.4）

（左 野瀬現関東支部長・右 海地氏）

# 森岡元校長先生

## ケニア共和国へ技術指導に派遣される

同窓会相談役もお願いしております森岡 清先生（昭和26年機械科卒）が、この度、文部省より選ばれて国際協力事業団（JICA）の一員として、ケニア共和国ナイロビ市の「ケニア・N.Y.S.技術学院」の機械工学の現地教員への技術指導・アドバイザー等のため、平成八年九月より一年四ヶ月余りの間、派遣が決定しました。

派遣壮行会は、八月二十四日に開かれ同級生・本部役員・高知支部から出席して御祝金を贈呈し祝いました。

お体に気をつけられて、元気でその任務を果たされますよう心からお祈りします。

【森岡先生からのお便りの一部を掲載します。】

出発に際しましては、盛大な送別会はもとより、何かとお心遣いを賜りまして有難く心から御礼申し上げます。皆様のお気持ちがいじみと有難く心にみる思いでした。

さて私方、九月二日午前八時に無事ナイロビ空港に到着しました。空から見るナイロビ空港周辺は、どちらかと言えば荒涼としたサバンナを思わせる風景で、草丈が約六十センチの一面枯草が広がり、所々にサバンナ独特の樹だけが緑を見せていて、写真で見たナイロビは何処に？？と言う思いでしたが、簡単な入国手続き後、迎える車でしばらく走りまると、あれがナイロビかと言うビル群が見えてきました。

しかし市街に近づくに従って木立は高くなりビル群はその陰になって見えなくなりました。

ナイロビの特徴は、高く大きな木立と本当に爽やかな気象にあります。ビル街は、限られた中心街にあり、周囲は高い木立に囲まれた広々とした住宅街です。一住宅の宅地が二千坪と言うのも珍しくありません。そこには五十ないし百坪の住宅が建っています。しかし現地の人々の住まいは必ずしも同じではありません。そのあたりの事情はご賢察いただけたらと思います。

到着後二日は、ホテル住まいでしたがその間に大使館、JICA事務所、そして職場でありますN.Y.S.技術学院の上部団体のN.Y.S.本部等に挨拶回りをし、学院に行つてスタッフへの紹介もして頂きました。下手な英語で最初の挨拶は、わずかに数行の挨拶でしたが、まさに冷汗三斗の思いでした。

勤務の一日目は、チームリーダーからのカウンセリングで、仕事の内容についてでしたが、早速この計画書を明後日までに、これを十九日までにと書類作成のラッシュで、本当に面食りました。基礎資料集めから始めたのですが、前任者が先年暮に帰国して八ヶ月の空白がありましたので、必要な資料の在処が分らず、本当に目の回る思いを久しぶりに味わうことになりました。

所属科（機械工学科）の施設・設備を見て回りまし

たが、ほとんどが日本製で、なじみのある物が多く安心しています。また、前任者の努力で良く整備も出来ているように思います。設備の内容は、日本の工業高校の機械科とほぼ同じですが、ボイラや液面制御の実習装置等があつてその面で少し違います。

全体のカリキュラムは、「シラバス」という日本で申しますと学習指導要領がありまして、それに沿つて各学校が作ります。シラバスは大変高度な内容を含み、かつ各科とも広範囲にわたつていまして、特に数学では偏微分や高次の積分等が出るなど、果して理解できるかと疑問視する向きもあります。

日本の高校と異なるのは、卒業時に総合的な国家試験があることで、生徒全員が受験を義務付けられています。これが卒業試験に相当するのですが、その合格率は三十数%とのことです。しかし、この数学は、ケニア国内の同等の施設に比べると格段に良いそうです。また、それに関わらず本学院の卒業は何か別の基準で卒業を認めているようです。そのあたりのことは未だよく分かりません。

卒業時の国家試験は、実は小・中・高校等、各学制の区切り毎にあり、その結果によつて上級学校への進学可否が決められています。

本学院に来る生徒は、中学でのふるいかけられた中の上以上の生徒達ですからそこへの能力の持ち主と申せます。

現地の先生のことを「カウンターパート」と呼んでいまして、彼らと私のコミュニケーションは全部英語です。英語の苦手な私にとって大変なことで、この一週間かろうじて意思の伝達できていますがこれから先、詳細なやり取りをするには更に英語の

単語を覚え勉強しなければと痛感させられています。いろくくと調べています内に、これからの仕事の役割、期待されている部分も少しづつ見えてきました。とにかくじつくり腰を据えてかかりたいと考えています。

今後ともに宜しくご声援下さいますようお願い申し上げます。失礼いたします。

先生の連絡先は、左記の住所です。

％ JICA, Kenya Office  
P.O. BOX 50572

Nairobi, Kenya

KIYOSHI MORIOKA

## 第二回

# 須工高体育祭

創立以来、須工高には体育祭は有りませんでした。が、本年より正式に生徒会の要望もあり、他校同様の体育祭を開くことになりました。

体育祭は、カッツで「ゴー」をテーマに、機械科二組、造船、化学工業、電気科各一組の計五組が、写真のようなパネルを作り、土曜休日の十月十二日当日は雨で流れ、十月十四日(月)に軟弱なグラウンドでしたが、開催しました。

男子の多い工業高校ならではの、マスト倒しや騎馬戦等々、泥だらけになりながらも頑張り迫力のある体育祭になりました。



## 事務局だより

### 開校記念行事

学校行事として、毎年五月二十五日に開校記念行事が行なわれております。

本年は、五月二十五日が土曜休日で五月二十九日に、開校記念式典を挙行了しました。

講師には、山崎正宏氏(昭和61年機械科卒)に、お願いしました。

山崎氏は、須工を卒業後「土佐闘犬センター」に入社し現在は、営業部長として、また日本リーグで現在、六連覇中の名門「闘犬センター」ソフトボールチーム主将として、ポジションは捕手で活躍しております。

昭和六十三年と平成五年の世界ソフトボール選手権大会に日本代表として出場し、更には、本年七月のアメリカで開催された世界選手権には、日本代表チーム主将として出場し、第三位の成績を上げました。本年は、本校が国体選手強化指定校に指定されていることもあり、特にお願いして「平成十四年国体に向けて」と題して、講演して載きました。

ソフトボール試合中と同じ迫力で、熱弁をふるって下さり、生徒達にも深い感銘を与えたと思います。講演にお礼を申し上げますと共に、山崎氏のこれからの更なる活躍を期待しております。

その後、恒例の開校記念科別綱引大会を開き、本年は機械科が接戦の末、優勝しました。

# 同窓会

## 総会開催

平成八年度総会が八月十一日(日)JA須崎市において約二百名の多数の出席のもと、恩師の先生方に御出席を載き盛大に行なわれました。

(総会の状況については「京滋支部だより」に中川氏によって、詳しく報告して戴いております。)

会議に先立ち、田辺博造初代会長・島崎良一元事務局長に感謝状を贈呈しました。

さて、今年の総会の主な議題は、役員改選・終身会費の値上げでした。

役員改選では、岡崎明常任理事(母校より須高久礼分校に転出)・中西二郎・竹下俊郎理事が退任され新たに森下春茂・山地健三・山岡英樹(南高校より母校へ転入)常任理事、笹岡文子・竹田友一・坂本操理事が新任されました。退任されました岡崎・竹下・中西氏には、長年本当に有難とうございました。又、新任されました六名の方、財政厳しき折、よろしく御指導をお願いします。

(「にしきうら」17頁の役員名簿を参照下さい。)

終身会費につきましては、物価上昇による終身会費の価値の減少や、金利低下による終身会費の利子収入の減少、更に須工高が、機械・造船・化工・電気それぞれ一学年一クラス制となり卒業生減少による収入減等により同窓会運営が成り立たなくなるので値上げを提案し、規約改正が承認されました。

### 同窓会会則 第七章 会計 第21条

本会の財政は会費・入金金・寄付金の他の収入によってまかなう。正会員は会費(終身会費)を納入しなければならない。

会費(終身会費)は一万五千元とする。

(ただし会費の改正は平成九年四月一日とする)

その後、お久しぶり、卒業以来やねえ等々の声が沢山聞える中、なごやかな楽しい懇親会となりました。

次回総会には、皆様ぜひご参加をお願いします。



### 事務局より

#### 終身会費納入のお願い

同窓会総会開催の記事にありますように、終身会費を、一万五千元に値上げしました。

事務局としましては、できるだけ運営経費を切りつめる努力をしておりますが、母校のクラス数・生徒数の減少や金利の低下等、今後同窓会を、末永く運営してゆくためにも、値上げを判断しなければならぬ状況となりました。

会員の皆様には、本当に申し訳ありませんが、ご理解をお願いします。

つきましては、まだ終身会費を未納の方は平成九年三月三十一日までに一万円を納入下さい。平成九年四月一日以降に納入される場合は、一万五千元となります。

## ご寄付御礼

(平成七年十月十日〜平成八年十月九日)

金一万円

昭和33年機械科 山本征四郎

金三万円

昭和23年機械二種 岡林 懸市(奥様)

誠にありがとうございました。

同窓会に活用させて頂きました。



# 平成7年度決算報告書

取入	費目	金額(円)	備	考
前年度繰越金		329,545		
新入生入会金		342,000	171名※2,000円	
雑取		14,074		
特別会計利息		604,334		
特別会計補助		1,310,000		
特別会計より補助		2,599,953		
特別会計計		2,599,953		
費目		金額(円)	備	考
会議費		15,000		
事業費		1,468,406	開校記念品代 会報印刷代 会報送料 振替用紙封筒代 その他	46,350 637,500 497,160 125,820 161,576
通信費		49,290		
事務費		48,269		
印刷費		160,393		
支部分金		601,850		
雑費		8,610		
旅費		192,020		
子備		10,000		
計		2,553,838		
収入	支出	残額		
2,599,953	- 2,553,838	= 46,115円		

## <特別会計>

終身会費	費目	金額	備	考
前年度未積立額		33,530,000		
本年度納入額		2,490,000	新卒(1,880,000) 旧卒(610,000)	
一般会計補助		▲1,310,000		
計		34,710,000		

## 監査報告

諸帳簿及び証書類等により監査の結果金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証書とも確実に管理適正に執行されている。

平成8年4月18日

監査 坂本 臣三 博  
" 松浦 博



# 平成8年度予算

(収入) 支部配分金 会員1名 200円

費目	金額	備	考
前年度繰越金	46,115		
新入生入会金	250,000	125名※2,000円	
特別会計利息	198,697		
雑取	10,000		
特別会計より補助	2,210,000		
特別会計計	2,714,812		

## (支出)

会議	費目	金額	備	考
事業費		1,399,787	開校記念品代 39,397 会報印刷代 600,000 会報送料 520,390 封筒代 59,200 振替用紙 30,800 総会準備 110,000 その他 40,000	8,700部 8,000部 6,000枚 3,500枚 110,000 40,000
通信費		30,000		
事務費		20,000		
印刷費		120,000		
支部分金		726,200	開校300 60,000 中京216 43,200 大阪498 99,600 京滋85 17,000 高知832 166,400 須崎1,500 300,000 窪川99 19,800 幡多101 20,200	
雑費		20,000		
旅費		300,000		
子備		47,825		
合計		2,714,812		

## 平成8年度特別会計予算

収入	項目	金額	備	考
前年度未積立額		34,710,000		
8年度納入予定額		2,260,000		
計		36,970,000		
一般会計へ補助		2,210,000		
計		2,210,000		
平成9年度へ累計積立額		34,760,000		

# 終身会費納入済者名

(平成7年10月1日～平成8年9月30日)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

中平 正治 山崎 真人  
中山 貴之 横山 公人

### 化学工業科

濱崎 寛興 植田 修司  
濱崎 進也 植野 智咲  
浜町 光弘 蛭子 直美  
林 洋一 大西 孝朋  
藤本 幸信 大峯 直子  
古川 尚志 岡崎 真弓  
矢野 修平 岡崎 知代  
山崎 学 渡本 典江  
山本 鉄平 小野さゆり  
高橋 洋平 川上 博正  
和田 匡史 古味 秀一  
荒木 寛 酒井 博司  
大川 光 高橋 広幸  
尾川 光輔 谷崎 一生  
堅田 恵太 中平 裕也  
門田 康宏 中山 武  
荻谷 文昭 鍋島 輝彦  
川本 誠之 西村新一郎  
坂本 譜成 濱岡 英春  
高橋 安明 藤崎 仁也  
田口 清和 藤本 誠  
竹内 久則 政岡 学  
竹崎 泰博 官本 憲二  
竹村 國広 森光 義人  
田中 弘二 矢野 寿美  
谷脇 正敏 山崎 和幸  
津野 英司 山崎 崇弘  
中平 真美 山本 敏雅  
西森 正夫  
野中 誠寛

### 電気科

濱岡 大介 秋山 賢二  
濱岡 品礼 有田 龍一  
廣田 幸司 市川 哲也  
藤川 康浩 市川 豊士  
藤本 義将 市木 貴央  
保川 芳範 岡 直基  
松田 聡 岡田 好史  
壬生 英寿 堅田 淳一  
望岡 克吉 上岡 浩治  
明神 光哉 河添 富雄  
森岡 誠 敷地 友和  
矢野 栄二 白石 敦夫  
山本 剛 高野 政志  
高橋 卓馬  
高橋 克行  
田部 宏昌  
辻 友彦  
筒井 大輔

佐竹 謙助 土居 正文  
塩見 純也  
高橋 和也  
高橋 清章  
高橋 栄樹  
瀧本 品司  
武政 博文

### 昭和55年

### 機械科

廣畑 和彦

### 平成8年

### 機械科

田村 通宏 市川 幸治  
佃 洋幸 大原 武史  
寺岡 弘史 堅田 満弘  
中井 良則 川田 理恵  
中川 大介 北川 和也  
中久保美文 小松 太郎  
中嶋慎一郎 下元 裕市  
西森 卓也 高橋 大介  
野瀬 秀範 高橋 知靖  
濱田 拓也 瀧石 諭  
弘田 隆 竹内 和憲  
藤原 理矢 竹本 拓也  
味元 淳一 田部 康司  
山岡 真也 寺村 匡弘  
山岡 俊行 出来 啓二  
中城 仁哉 中城 仁哉  
西村 裕之 西村 裕之  
濱口 卓 濱口 卓  
濱田 哲也 濱田 哲也  
平井 学 平井 学  
福井 誠二 福井 誠二  
古谷 和洋 古谷 和洋  
堀田 拓也 堀田 拓也  
松浦 誠 松浦 誠  
村田 大 村田 大  
森田 秀義 森田 秀義  
有暗 有暗  
安野 宏朗 安野 宏朗  
山田 則幸 山田 則幸  
山本 順平 山本 順平  
横山 晃 横山 晃  
吉川 英雄 吉川 英雄  
吉村 誠 吉村 誠  
池田健太郎 池田健太郎  
石村 晃久 石村 晃久  
大崎 彰久 大崎 彰久  
大原 幸司 大原 幸司  
岡林 全尚 岡林 全尚  
片岡 淳 片岡 淳  
川島 一徳 川島 一徳  
川村 幸司 川村 幸司  
和也 和也  
賢志 賢志  
胡摩崎真也 胡摩崎真也

### 造船科

在木 幸精  
市川 剛  
岩崎 伸彦  
馬詰 友和  
江淵 貴彦  
大川 進一  
岡崎 浩明  
岡村 大樹  
岡本 智也  
澳本 維仁  
川島 暢弘  
清岡 良光  
小田 典廣  
小島 規寛  
坂本 淳一  
島崎 亮公  
鈴木 肇  
竹本 雅志  
田邊 大悟  
谷脇 徳彦  
中平 裕也  
明神 圭祐  
森田 新吾  
森田 潤也

### 昭和45年

### 機械科

谷脇 弘晃  
中越 康幸  
弘田 悦三

### 化学工業科

利岡 穂

### 昭和40年

造船科 岡村 英一  
黒岩須美雄

### 造船科

吉村 和晃

### 電気通信科

渡辺 倍男

### 昭和20年

### 機械科

大野 義雄

### 昭和24年

### 機械科

坂本 喬

### 昭和36年

### 機械科

堅田寿能夫

### 昭和28年

### 機械科

野村 俊明

### 化学工業科

壺瀬 五郎

### 昭和41年

### 機械科

梅原 一範

### 昭和46年

### 機械科

木下 正雄

### 電気科

篠野 義夫

### 化学工業科

小松 純一

### 昭和47年

### 機械科

坂本 健次

### 化学工業科

西岡 豊

### 電気科

広瀬 昌功

### 昭和29年

### 造船科

渡辺 清

### 昭和29年

### 機械科

盛光 宜之

### 昭和30年

### 機械科

甲斐 健宏

### 昭和30年

### 機械科

藤川 翰

### 昭和37年

### 造船科

窪田 稔寿

### 昭和37年

### 機械科

津野 忠雄

### 昭和42年

### 機械科

奥山 昭三

### 昭和32年

### 電気通信科

南部 裕祐

### 昭和48年

### 機械科

森岡 弘和

### 化学工業科

松本 正邦

### 昭和32年

### 造船科

高添 康広

### 昭和32年

### 機械科

谷岡 福躬

### 昭和43年

### 化学工業科

笹岡 一

### 昭和43年

### 電気科

明神 敏行

### 昭和38年

### 造船科

吉井 勝喜

### 昭和38年

### 機械科

山本征四郎

### 昭和49年

### 機械科

谷口 修

### 昭和49年

### 電気科

高橋 久男

### 昭和33年

### 造船科

井上 萬幸

### 昭和33年

### 機械科

高橋 健造

### 昭和50年

### 化学工業科

池田 潔

### 昭和44年

### 機械科

谷澤 幸彦

### 昭和38年

### 造船科

下村 和夫

### 昭和38年

### 電気通信科

井上 萬幸

### 昭和51年

### 機械科

池田 潔

### 昭和44年

### 電気科

高橋 久男

### 昭和39年

### 造船科

安並 政史

### 昭和39年

### 機械科

津野 秀一

### 昭和50年

### 化学工業科

池田 潔

### 昭和44年

### 機械科

谷澤 幸彦

### 昭和39年

### 造船科

安並 政史

### 昭和39年

### 機械科

津野 秀一

### 昭和50年

### 化学工業科

池田 潔

### 昭和44年

### 電気科

高橋 久男

### 昭和39年

### 造船科

安並 政史

### 昭和39年

### 機械科

津野 秀一

### 昭和50年

### 化学工業科

池田 潔

### 昭和44年

### 電気科

高橋 久男

### 昭和39年

### 造船科

安並 政史

### 昭和39年

### 機械科

津野 秀一

### 昭和50年

### 化学工業科

池田 潔

### 昭和44年

### 電気科

高橋 久男

### 昭和39年

### 造船科

安並 政史

### 昭和39年

### 機械科

津野 秀一

### 昭和51年

### 機械科

明神 修次

### 昭和44年

### 電気通信科

明神 修次

### 昭和39年

### 造船科

松岡 誠一

### 昭和39年

### 機械科

谷口 務

# 平成 8 ・ 9 年度 役員名簿

役 職	氏 名	卒コード	科別
相談役	田辺 博造	S18-013	機械 2 種
相談役	清家 寛	S18-010	機械 2 種
相談役	森岡 清	S26-020	機 械
名誉会長	尾崎 翹彦		
会 長	寺田 郁雄	S21-025	機械 1 種
副会長	竹内 良一	S25-014	機 械
	下元 征夫	S37-129	電気通信
	井上 耿介	S39-004	機 械
新常任理事	森下 春茂	S21-019	機械 1 種
	武内 徳雄	S23-034	機械 2 種
	岡林 幸保	S28-038	造 船
	高橋 三雄	S32-019	機 械
	植田 幸子	S32-095	電気通信
	山崎 吉広	S33-087	造 船
新	西森 昌身	S34-121	電気通信
	山地 健三	S39-180	化学工業
	竹崎 貞夫	S43-040	機 械
	西山 庸一	S48-090	造 船
	長山 孝弘	S52-028	機 械
新	山岡 英樹	S57-034	機 械
理 事	中平 萬年	S18-017	機械 2 種
	川添 泉	S21-012	機械 1 種
	廣瀬 理	S21-029	機械 1 種
	山田 豊	S21-035	機械 1 種
	吉村 功	S21-081	機械 2 種
	堅田 耕勇	S25-006	機 械
	野瀬 公介	S31-099	電気通信
	中西 安男	S32-023	機 械
	江口 長靱	S33-041	機 械
新	松浦 政志	S35-065	機 械
	笹岡 文子	S39-157	化学工業
	長谷部俊夫	S41-168	化学工業
新	竹田 友一	S42-042	機 械
新	坂本 操	S43-030	機 械
	梅原 正博	S47-116	化学工業
	坂本 定浩	S54-009	機 械
監 事	坂本 臣三	S25-009	機 械
	松浦 博	S37-104	造 船
会 計	津野 隆	S41-090	造 船

支 部 長      幡多：松浦政志      窪川：川添 泉      須崎：山地健三      高知：森下春茂  
                  大阪：山田 豊      京滋：田村武夫      中京：                      関東：野瀬公介

## 校歌

- 一、須崎工業高校の  
教の庭に身と心  
新天新地光明の  
輝やくもとに勇ましく  
日々鍛いぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教  
太平洋の荒波は  
わが人生の活動か  
さらに心の平穏は  
波静かなる錦浦
- 三、工業報国理想とし  
自主独立の精神を  
いだき責務を怠らず  
真理と正義重んじて  
わが向上の道を逐う

## 各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。(第二号十九頁の様式)

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していませんので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき四〇〇円
成績証明書	一通につき四〇〇円
単位修得証明書	一通につき四〇〇円
送料	

送り先 〒785須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話 (〇八八九) 四二一八六一

FAX (〇八八九) 四二一七一五

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

## 編集後記

毎年のことながら、各支部の役員並びに会員の皆様へ原稿をご依頼いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず心よくご寄稿頂きありがとうございます。

本年は皆様からの原稿が早く届き、編集者としては誠に有難かったです。(来年もよろしく願います。)

会報「にしきうら」第21号をお送り致します。会報届先不明者の住所等ご承知の方並びに住所・勤務先が変更になった方は、会報の折り込み葉書で事務局まで連絡下さいませようお願い致します。

平成九年度も会報第22号を発行いたします。事務局より勝手ながら、ご寄稿のお願いを致しますので、九月五日までにお寄せ下さいませようお願い致します。

編集委員 西森 昌身

会報「にしきうら」第二二号

平成八年十二月一日発行

発行所 高知県立須崎工業高等学校

同窓会事務局

印刷所 有限会社 笹岡印刷所

高知県須崎市東古市町二番十六号

TEL (〇八九) 四二一〇二四四番